

災害への備え 住民と確認

帯広 宮坂建設工業が訓練



参加者が見守る中、がれきからの救出作業が行われた宮坂建設工業の防災訓練（村本典之撮影）

市民や関係機関と共に災害への備えを確認する宮坂建設工業（帯広）の防災訓練が26日、帯広市の帯広南

商高跡地（西17南5）で開かれ、地域住民のほか、市内や音更町の学校などから約4千人が参加した。会場には震度7を再現する地震体験車や、水流の中を歩く水害体験コーナ―があり、参加者が災害の怖さを体感。がれき救出訓練では重機で木材などを撤去し、中から被災者に見立てた人形を救出した。炊き出し訓練としてカレー2千食が参加者に振る舞われた。応急処置教室では中学生らがラップを腕などに巻いて止血する方法を教わった。音更・駒場中2年の高田凛さん、西岡隼汰さんは「実際にやると難しいけど、万一の時のために覚えておきたい」と口をそろえた。同社は2003年の十勝沖地震以降、住民参加型の訓練を続ける。防災功労者として今月、防災担当大臣表彰も受けた。宮坂寿文社長は「年々、地域の防災意識の高まりを感じる」と話していた。（東野純也）



千人参加し防災訓練
土のう作りなど学ぶ
【北広島】宮坂建設工業（帯広）の札幌支社は26日、地域参加型の防災訓練を市内の北広島河川防災ステーションで行った。道内で災害が頻発していることもあって市民ら千人が来場、災害への備えを学んだ。北広島での開催は2年ぶり2度目。同社の担当者が土のう作りなど災害時に使える技術を市民に指導し、心肺蘇生などの訓練も行った。

東部小5年生も授業の一環として参加。地震体験車で阪神淡路大震災（1995年）と同じマグニチュード（M）7・3の揺れを体感した。南崎結友君（10）は「イスから落ちそうだった」と驚いていた。（石田礼）

第25回地域防災訓練を実施

本番さながらの緊張感で
意識の高まり受け4000人來場

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は、十六日、市内の帯広南商業高校跡地で第二十五回地域防災訓練を行った。昨夏の大規模地震で防災に対する市民の意識が高まっていることもあり、前回は大幅に上回る約四千人が来場し、本防訓練や互援救出訓練などを本番さながらの緊張感で実施した。

防災訓練は、平成五年から実施しているもの、当初は職員のみを取り組んでいたが、十五年の十勝沖地震を契機にその対象を拡大、地域住民の防災意識の高揚や被害の低減に向け、協力会社や発注先、各町内会などにも参加を呼びかけ、実践的な訓練を展開している。

この日は、帯広市近郊で震度6弱の地震が発生した状況を想定し、会場に災害対策本部を設置。札幌支社と連携を図りながら、衛星電話や無線機、スマートフォンを使用した河川・橋梁・建物等の現場パトロールを行った。



互援内に集められた要救助者の救出活動を実施した。

一般公開の訓練では、多くの関係機関や民間企業が協力したほか、帯広・蕨高校、音更町立駒場中学校、帯広市立緑ヶ丘小学校、帯広市立法陽小学校の児童生徒が社会学習の一環として参加。土のうを積み上げる水防訓練や、重機による互援救出訓練、小学生と来場者が共同で取り組むバケツリレー消火訓練などが行われた。

また、今回は地震体験車の試乗、煙体験、応急処置・救護の実演に関するコーナーも設け、住民参加型の内容に、最大で震度7クラスの揺れが再現できる地震体験車には、子どもも大興奮し、机にしがみついたり、机の下に隠れたり、地震による揺れに、十月までの開通を目標とした。

札幌支社―体験で学ぶ防災
住民ら訓練に積極参加

北広島会場、1000人集う

【帯広】宮坂建設工業札幌支社は、十六日、北広島市内の千歳川左岸にある北広島河川防災ステーションで第二十五回地域防災訓練を実施した。地域住民らおよそ一千人が参加し、いざという時の行動を体験的に学んだ。

札幌支社では、土のうを積み上げる水防訓練や、重機による互援救出訓練、小学生と来場者が共同で取り組むバケツリレー消火訓練などが行われた。互援内に集められた要救助者の救出活動を実施した。

このほか、会場中央には大型映像を用意し、各訓練の状況や災害対策本部の様子などをライブ中継。また、十月までの開通を目標とした。同社では「自然災害を完



小学生らがバケツリレー等の体験を積んだ。

同ステーションでの開催は二回目。会場では、児童や地域住民らが水防工法に使う土のうの詰めや、消火器の取扱い、地震体験車試乗などを体験した。AEDを使った心肺蘇生法の訓練や、木流し工法、積み土のう工法などの水防訓練も行われ、体験を通じて水防意識の向上を目指した。

2017. 09. 28 北海道建設新聞

本社、札幌支社で
住民と防災訓練

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広）の本社と札幌支社は、十六日、帯広市や無縁を駆使しながら河川防災ステーションで訓練を実施。北広島市内の東部小5年生約60人や近郊地域住民ら約400人が参加し、防災意識の向上を期して、子どもも大興奮し、机にしがみついたり、机の下に隠れたり、地震による揺れに、十月までの開通を目標とした。



訓練に取り組んだ。水防訓練では、トラップの地震が発生した際の想定、堤防決壊をイメージして実施。災害対策本部としたステーションにシヨバルを配置して本社間で連携を積み上げて見せた。

帯広市内では、旧帯広隣住民、札幌開建千歳川南商高跡地で開催。河川事務所、北広島市、真、地域住民ら4000協力会社などから約100人が参加し、防災意識の向上を期して、子どもも大興奮し、机にしがみついたり、机の下に隠れたり、地震による揺れに、十月までの開通を目標とした。



地域児童招き 防災の知恵紹介 宮坂建設札幌支社

【北広島】宮坂建設工業札幌支社は26日、北広島市内の河川防災ステーションで防災訓練を行い、地元小学生ら50人が参加した。

札幌支社管轄の地域防災訓練の住民参加は今年で2回目。小学校の参加は初めてで、北広島東部小学校の5年生の児童60人が、地震体験車に乗車するなど、防災を学習した。防災訓練では土のうの実用的な積み方、水防工法に役立つロープワークなどを参加者が体験。展示ブースでは非常食の展示や試食、消防機材などに多くの参加者が興味深そうに見入っていた。

同支社副社長の佐々木勝幸常務執行役員は「防災の意識を持つため、次世代の子どもたちが来ることは意義のあること。万が一のときに自分の身を守るきっかけになれば」と話していた。

（有岡志信）

小学生に消防車の機能を説明する消防隊員

地域防災訓練に
4000人参加
宮坂建設工業
宮坂建設工業 帯広、宮坂寿文社長は26日、帯広市内の旧帯広南商業高校跡地の地域防災訓練を聞いた。参加者は応急処置体験などを通じ、災害が発生した際の対応について学んだ。今年で25回目。2003



帯広市近郊などで震度6弱の地震が起きた想定。会場内ではバケツリレーによる消火訓練やロープ結ひなど、実際に体験できるコーナーが多く設けられた。カレーライスの炊き出しも行われた。

水深17mの水の流れを体験できる「水中歩行体験」を行った市内の会社員澤谷健司さん（58）は「水圧が強、思うように歩けなかった。慌てないでゆっくり歩くことが大切だと分かった」と話していた。

（中島佑子）

年々十勝沖地震を機に地域住民参加型で実施しており、この日は約4000人が参加した。午前8時40分ごろに、帯広市内近郊などで震度6弱の地震が起きた想定。会場内には会場内に設置された同社札幌支社と連携した警報状況の確認作業などを行った。

週休2日制の推進に当たっては、週休1日の場合に比べ工事日数が約20%、直接工事費が約15%増加するとの協会側の試算を提示。これらを参考に現場工事工程や積算の改定を求めた。複数の工事の入札手続きを同時に行う一括審査方式は、橋建協の調査によると、鋼橋上部工事では13年度に1組（2件）発注して以降採用されていない。協会側は「対象となる工事があれば適用を検討してほしい」と同方式の拡大を求めた。

宮坂建設工業は9月26日、北海道帯広市と北広島市の2会場で地域防災訓練を行った。震度6の地震発生を想定して直ちに本社と札幌支店に対策本部をそれぞれ設置し、河川や建物などの現場パトロールを行った。一般向けの訓練では帯広市の会場に4000人、北広島市の会場に1000人が参加。地元小学生を含む一般の参加者がバケツリレーによる消火訓練や、地震体験車の試乗体験などを行った。

同社は03年の十勝沖地震を機に、所有する資機材などを活用し、地域住民と一体となった防災訓練を例年実施している。建設機械への試乗も行われた。

同社本社の防災訓練は、帯広市の帯広南商業高校跡地で行われた。帯広近郊で震度6強の地震が発生した状況を想定し、本社同様に想定地震発生直後の連携体制を確認。一般向けの訓練では心肺蘇生法などの救護や、土のうを作成して積む水防の訓練、地震体験車の試乗などを行った。

地域と一体で防災訓練 帯広と北広島の2会場で

札幌支店の訓練は北広島市の北広島河川防災ステーションで行われた。札幌で震度6強の地震が発生した状況を想定し、本社同様に想定地震発生直後の連携体制を確認。一般向けの訓練では心肺蘇生法などの救護や、土のうを作成して積む水防の訓練、地震体験車の試乗などを行った。

地域防災に貢献する次世代型建設業

防災功労者 防災担当大臣表彰 全国の建設業者として初受賞



小此木防災担当大臣(左)から表彰状を受け取る宮坂社長

宮坂建設工業が、今年の一防功労者表彰に選ばれた。毎年行っている防災訓練などの取り組みが評価された。内閣府で発表されている「防災功労者表彰」は、災害時や平時の防災体制などの面で貢献し、功績が顕著であると認められる団体や個人に贈られる。

9月12日、都内の中央合同庁舎8号館で2017年防災功労者表彰。防災担当大臣表彰を行い、防災思想の普及部門で同社の宮坂寿文社長に、小此木八郎防災担当大臣から表彰状が贈られた。同社は1993年の創



防災意識の高まりを受け、多くの来場者が訪れた



消防訓練でバケツリレー。子供たちも真剣な表情で参加



地震体験車では大きな震度を体感



札幌支社会場の全景

宮坂建設工業 帯広、宮坂寿文社長は9月26日、帯広市内の旧帯広南商業高校跡地(西17南5)で住民参加型の地域防災訓練を開いた。参加者は応急処置体験などを通じ、災害が発生した際の対応について学んだ。今年で25回目、地域住民参加型としては15回目の開催となる。

1981(昭和56)年に北海道各地に甚大な被害をもたらした「56水害」が宮坂建設工業の防災の

始まりとなっている。以来、24時間防災体制を整え様々な災害対応を行っている。93年の釧路沖地震発生を機に自社の防災訓練がスタートし、2003年の十勝沖地震発生からは防災意識の高揚と被害軽減を目的に地域住民参加型として実施しており、当日は本社帯広会場では約4000人、同時間開催した札幌会場では約1000人の、合計約5000人が参加した。

この日は、午前8時40分に帯広市内で震度6弱の地震が起きたと想定。会場内では本番さながらの大型土のうを使った水

の訓練や、瓦礫撤去訓練、バケツリレーによる消防訓練などを行った。また、水中歩行や地震体験車などの実際に体験できるコーナーも設置。カレーライスの炊き出しも行われた。一般開放の前には会場

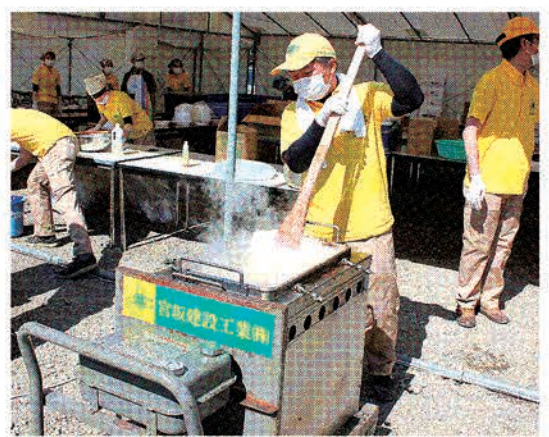
の災害にも貢献している。この日は、午前8時40分に帯広市内で震度6弱の地震が起きたと想定。会場内では本番さながらの大型土のうを使った水の訓練や、瓦礫撤去訓練、バケツリレーによる消防訓練などを行った。また、水中歩行や地震体験車などの実際に体験できるコーナーも設置。カレーライスの炊き出しも行われた。一般開放の前には会場

地域の皆様と共に、災害対応24時間体制の確立
「世の為人の為につくせ」を
実践する宮坂建設工業

宮坂建設工業は1922(大正11)年に創業し、今年で95周年。開設75周年を迎えた札幌支店は4月から札幌支社に格上げした。社員数は本社、支社あわせて250名となる。



水害時の土のう設置訓練では建設重機が大活躍



炊き出し訓練も本番さながらに

宮坂建設工業の防災活動

主な表彰歴

- 2013年10月23日
防災活動に対する感謝状
国土交通省
北海道開発局帯広開発建設部長
- 2015年3月30日
広島市土砂災害被災地支援活動
に対する感謝状
国土交通省北海道開発局長
- 2016年12月9日
北海道社会貢献賞(防災功労者)
北海道知事
※地域における自主的な防災活動の推進や防災意識の向上を図るため、防災対策の推進に貢献
- 2016年12月22日
夏季大雨災害対応に係る感謝状
北海道開発局長
- 2017年9月12日
防災功労者防災担当大臣表彰
内閣府特命担当大臣
(防災担当大臣)

そのほかの取り組み

- レジリエンス認証
本認証は、大企業はもとより、中小企業、学校、病院等各種の団体における事業継続(BC)の積極的な取り組みを広めることにより、すそ野の広い、社会全体の強靱化を進めることを目的としている。2016年度の第1回となる認証で、北海道から同社が唯一認証を受けた(全国では各分野から44団体)。
- 国土強靱化[民間の取組事例集]
内閣官房では、国土強靱化、防災・減災の取り組みとして民間企業等の取組事例集を公表している。先導的な取り組みの概要、工夫や苦労した点、平時の活用方法のほか、防災以外の効果などの情報を公表し、安全安心な生活作り「国土強靱化」を推進。第1回(2016年5月)に発刊された「国土強靱化 民間の取組事例集」(内閣官房国土強靱化推進室)に同社主催の「地域防災訓練」が掲載された(全国377事例掲載)。

長年の実績を評価

札幌支社会場の全景

札幌支社会場での消防訓練

技術と信頼で明るい未来を創造する

おかげさまで 95 年
宮坂建設工業株式会社

本社 〒080-0014 帯広市西4条南8丁目12番地 TEL(代表)0155-23-9151番
札幌支社 〒001-0014 札幌市北区北14条西3丁目2番12号 TEL(代表)011-736-1821番
東京支店 〒141-0031 東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル TEL 03-6431-8838番
釧路支店 〒085-0811 釧路市興津5丁目19番4号 TEL 0154-92-2000番

www.miyasaka-cc.co.jp



日勝峠7合目付近 被災当時



日勝峠7合目付近 現況



札内川・戸蔭川合流地点 被災当時



災害復旧状況



札内川・戸蔭川合流地点 現況



日勝峠8合目付近 被災当時



日勝峠8合目付近 現況